

江乃嶋紀行

鎌倉鶴が岡、江乃島詣の事、あまた可 乃 阿末多

としおもひわたりつれど、何くれと世の登之於毛比王太利都連度 九礼止 乃

ことわざしげく、まだ道の程もやゝ遠古止和左志希久 末多 乃 毛屋

ければ、心にもまかせざりしを、ことし介礼者 尔毛末可世佐里之越、古止之

ばかりは何のさはる事もなくて、卯月者加利八 能佐者留 毛奈久天

中の八日しのゝめに出たつ。空のけしき乃はちぢち志乃ゝ免尔 堂川 乃遣之支

いとしつかなり。以登志川可奈李

ねぎ事の としをかさねて 夏衣称支 能 登之遠可佐年天

けふおもひ立 たびぞすゞしき氣不於毛比 堂比曾春ゝ之起

高輪にてしばし休らふ。東海寺・海安寺尔天志者之 良不

の紅葉、過にし秋見しおもかげなど乃 尔之 之於毛可計奈止

しのばれて、青葉しげれるさまも見ま志乃者連天 志介連類左満毛 末

ほしけれど、行先のいそぐまゝに、立も本之遣連度 乃以曾久末ゝ仁 毛

よらず、さめず・あらいが崎をも打過て、与良須、左免須・安良為可 遠毛 天

大森なる梅園に遊び、六郷の舟渡しも奈留 耳比 乃 之毛

いとやすらかにこえ、川崎の万年屋と以止也善良可尔己衣 乃 登

いへるに立よりて、風の支度などとのへ、以部留尔 与里天 乃 奈止止ゝ乃部

神奈川の井柵屋にやどりぬ。それより乃 尔也止利怒 曾礼与利

むかひなる権現山にのぼり、海面はるかに武可比奈留 尔乃本利 者留加尔